

3サンハイツせけんばな紙

第 40 号

令和7年3月1日

編集責任者

田島康弘(3-101)

作成責任者

渡邊芳憲(9-503)

編集委員

小松清明(10-501)



ツルソバ(蔓蕎麦)
別名 フォタナム 火炭母(中国名)
3号棟の前に生えていました。以前本紙でヒメツルソバ(第9号、2022年(令和4年)8月号)を紹介しましたが、あります。これとよく似ていますが、一番違うところは花の色です。ヒメツルソバの花は桃色であるのに対し、ツルソバの花は白です。よく見ると花の形も少し違っていて、ヒメツルソバがぼまんまるであるのに対し、こちらは写真のようにまるが崩れています。つる性で横に伸びることや果実がソバの実に似ていることなどは同じなので、どちらもツルソバの名がついています。この写真は昨年撮ったものです。花期は5〜12月で、あまり目立たないですが長く開花しているので、花言葉も「いつもそこに」と名付けられています。

団地内の野草

田島康弘(3-101)

3月行事予定

詳細はL.L.かもいけ3月号(132号)に

4日(火) ◎第7回ダレデューモマナヴェール

「鴨池小学校創立75周年記念講話」&成人学級閉講式

18:30~19:30 真砂福祉館1階洋室

8日(土) ◎鴨池小学校 土曜授業

◎鴨池中学校 土曜授業

◎第5回腎臓病教室「腎臓を守るためには」

10:00~11:00 今村総合病院C棟8階ラウンジ 先着20名

9日(日) ◎火災予防の日(毎月9日)

12日(水) ◎鴨池中学校 卒業式

13日(木) ◎公立高校合格発表

14日(土) ◎ (鴨コミュ・鴨小PTA 合同) リサイクル活動

7:30~8:00 鴨池小学校正門/東門

24日(月) ◎鴨池小学校 卒業式

25日(火) ◎鴨池小学校 修了式、辞任式

◎鴨池中学校 修了式、離任式

26日(水) ◎鴨かもサロン(体幹トレーニングの簡易版)

10:00~11:20

鴨池生協クリニック1階 参加費:100円

申込み: ☎080-2739-3578、099-260-3532

担当/片平さん

(体幹トレーニング、健康マージャンも同じ)

体幹トレーニング

3日(月) 11:00~12:00

24日(月) 11:00~12:00

鴨池生協クリニック5階

参加費:500円

賭けない吸わない飲まない

健康マージャン

13日(木) 13:30~15:30

27日(木) 13:30~15:30

鴨池生協クリニック3階組合員集会室

スマホ相談会

12日(水) 10:00~12:00

26日(水) 10:00~12:00

鴨池校区公民館

要予約

(その週の月曜日午前中までに

鴨コミュ事務局に)

※お問合せ・申込み

鴨池校区コミュニティ協議会事務局(☎099-285-1522)まで

(月・水・金曜日は9:00~12:00、火・木曜日は10:00~12:00、土日祝は休み)

レベッカさん、ありがとう

田島康弘（3・10・1）

■はじめに

レベッカさんとは鹿児島市国際交流課にいる3人いる国際交流アドバイザーのうちの一人で英語を担当している人です。他の二人は中国語を担当する中国人のテン・スー・ペイさんと韓国語を担当する韓国人のノ・ソヨンさんで、3人とも若い女性です。

私は3人とも会ったことがあり、とくにレベッカさんには英語やアメリカ文化を、テン・スー・ペイさんには中国語や中国文化を、ともに数回の講座をとおして直接教えていただきました。

国際交流アドバイザーとは鹿児島市で国際交流を促進するため、窓口での通訳の補助や公文書の翻訳などの仕事をする人のようです。

■レベッカさんとの出会い

さて、レベッカさんですが私が彼女に最初に出会ったのは3年ほど前の英語の講座だったと思います。その講座の中で彼女はアメリカという国が先住民の虐殺という歴史の上に成り立っている国であることをはっきり述べたことが強く印象に残っています。彼女はシアトル出身で、先住民の友人もいるようでした。

その後、サンエール鹿児島で右記のアドバイザーの3人（中国は前任のリョウ・カイ・レイさんでした）と一緒にそれぞれの国について簡単に紹介するイベントがあり、その時もレベッカさんの話は先住民だけでなく、アメリカが抱える社会問題に鋭い視点で触れるもので、今のアメリカの貧富の格差等を批判する若い世代を

代表するような話ではないかと感じたことを思い出します。

■英語文化講座

そして、今回の英語文化講座（中級）での再会です。この講座は今年（2025年）の1月17日から2月21日まで毎週金曜日（全6回）行なわれました。そのテーマは「英語で多文化共生を考える」であり、目的は

- (1) たくさんの英語を聞かせ、また使わせること。
- (2) アメリカと日本・鹿児島の「多文化社会」について理解し、問い直すこと、とありました。
- (2) の「多文化社会」については私もとても興味を持っていたテーマであったので、願ってもない良い機会だと思って参加しました。

■聞き取りの難しさ

レベッカさんは日本語もとても上手ですが、初めからほとんど英語ですので、今の私の聞き取りの力では半分も聞き取れませんでした。何とか内容が理解できたのは話の内容が文字でプリントして配布されていたためであり、また時々日本語も入れて話をしてくれたためです。

レベッカさんの講義の後、4〜5人のグループで参加者同士が与えられたテーマで、ほぼ英語で話し合うのですが、これにはもちろんテキストはなく、すべて聞き取らねばならないので、英語が上手な人の話の内容は私にはよく分かりませんでした。ところがグループごとに何を話したのかについての発表者をルールレットで当てるというやり方を2回ほど（確か3週目と4週目）行ないました。

■ルールレットは心臓に良くない

こうすると、スラスラ話せる人もいますが、

グループで何を話したのかがわからず躊躇する人も出てきます。私も後者の方なので、4週目の感想に「ルールレットは心臓に悪いのでやめてほしい」と書いたところ、5週目のはじめに先生であるレベッカさんはすぐこれを取り入れて、個人ではなく、グループの中で誰が発表するかを決めるというやりかたに変えてくれました。

■英語力と多文化共生の課題

今回の講座でレベッカさんの英語をたくさん聞いたためか、回を重ねるごとのレベッカさんの話が少しずつ分かるようになってきました。これが英語としての力が付いた一番良い側面であったと思っています。もう一つの「多文化共生」については問題を深めることは多少できたかもしれませんが、なぜ日本は難民の受け入れが他国と比べて極端に少ないのかなど、まだまだ課題はたくさんあると感じています。

■おわりに

レベッカさんは今年の3月で鹿児島市の国際交流アドバイザーの仕事を退職し、4月から東京の大学院でさらに日本語教育の勉強をするそうです。蔭ながらさらなる成長を祈りたいです。

私がレベッカさんから一番学んだことは英語に対する考え方や英語の捉え方です。これを一言でいえば英語はコミュニケーションの道具の一つ（にすぎない）ということです。良い道具を持っているに越したことはありませんが、もっと大事なことはその道具を使う人自身だということです。いくら英語が話せても、話す人自身に内容がなければ軽薄な人とみなされてしまうでしょうやはり自分を磨くことが一番大事であり、このことを英語をとおしてレベッカさんは教えてくれました。レベッカさん、ありがとう。